

日本生産性本部 主席経営コンサルタント 加藤 篤士道



(かとう としみち)1967年生まれ。東京都出身。早稲田大学商学部卒。

監査法人に勤務後、日本生産性本部「経営コンサルタント養成講座」を修了。主に中堅中小企業に対して中期経営戦略・経営計画策定・実行支援コンサルティング、組織力強化コンサルティングなどを実施。上場企業に対しては次世代リーダー育成研修、コンセプトスキルの強化研修などを担う。公開型研修では、新任取締役に対する財務戦略、上級管理者育成研修、中小企業診断士養成講座、新入社員研修など幅広く担当。中小企業診断士や金融機関向けにオンラインでの少人数型ケーススタディ演習「ソリューション特講」を実施。公認会計士。関与先は140業種、160社以上。主な著書として、『経営の基本』（中央経済社）、『営業マネジメント』（共著、中央経済社）、『Business Basic Note』（CHAPERON）などがある。

1996年に外資系の監査法人から日本生産性本部の経営コンサルタント養成講座を経て経営コンサルタントになって26年が経過した。この間に企業のコンサルティンクに対する抵抗感はずいぶんと薄れてきたように感じるが、日本生産性本部が経営コンサルタントを行っていると意外と知られていない。

それもそのはずで、日本生産性本部は専属経営コンサルタントが47人の規模がファームだ。私が転職してきた頃も大体40人前後だったので、入れ替わりはあるがほとんど増えていない。他のコンサルタントがファームがどんどん大きくなっ

ているのに、なぜ、日本生産性本部は経営コンサルタントを増やしてこなかったのか？それは、自分たちが事業規模を大きくするの

約7000人も経営コンサルタントを養成してきたのだ。また、国家資格である中小企業診断士養成も2007年度から行ってお

定の遵守が求められる。一般企業でいうところの「行動規範」で顧客の守秘義務の保持や依頼者の長期、持続的利益を優先的に

また、日本生産性本部の専属経営コンサルタントは全員経営コンサルタント養成講座や中小企業診断士コースを卒業する。そして、生産性運動の三原則は最初の講義で必ず学ぶので日本生産性本部の経営コンサルタントの共通の

経営コンサルタントを突き動かすもの

は、昨年度の29期生までで800人近くの人が資格取得している。

350万社もある日本の中小企業の生産性向上を自

考えて行動することなどが記載されているのだが、一番初めに書かれているのは「生産性運動の三原則に基

つとめなければならない」ということだ。つまり①雇用の維持拡大②労使の協力と協議③成果の公正な分配だ。だから私は26年間、生産性運動の三原則を常に意識して経営コンサルティングを実施してきた。

偶然入った日本生産性本部というコンサルティングファームだが、職員もそれぞれが置かれた立場で、生産性運動の三原則を念頭に熱い思いを持っている。

日本生産性本部の職員の一人ひとりの支えがあった初めて私は自分のコンサルティングに思う存分専念することができており、本当に心から感謝をしている。

19958年に「中小企業コンサルタント指導者養成講座」（現経営コンサルタント養成講座）を開

設し、65年間にわたって

15人の経営コンサルタントによる
生産性向上策
～企業の成長と、働く人のウェルビーイングを目指して～

公益財団法人 日本生産性本部
コンサルティング部 編

生産性の本質は前述だ。明日は今日に勝るという精神が、世界を動かす。できるだけ良い方へ、そして60人、企業の本質と、働く人のウェルビーイングを目指して、あなたの明日は、どんなだろう。いっしょに前へ

公益財団法人 日本生産性本部
コンサルティング部

amazon、日本出版販売
経営コンサルティング部

Chapter 5: 生産性運動三原則と経営コンサルティング

私は「生産性運動三原則」を一般企業における経営理念と位置づけ、経営コンサルタントとして、生産性運動三原則にこだわりをもってコンサルティングをもちょうと貢献できることがある。特にアウトプットである付加価値の向上を目指した経営コンサルティングを今まで以上に強力に進めていきたい。

く、お互いに独立している。それぞれ職歴や専門分野も異なり、個性的な経営コンサルタントが多いが、根本の想いではつながっている。

たとえ一緒に仕事をしたことがない人でも、私は同僚の経営コンサルタントを全員尊敬している。経営コンサルタントは毎日何かしらのアウトプットをしなければならぬため、みなクライアントのために必死に頑張っている。決して逃げないし、どんなときも前向きだ。何かわからないことを一つ聞くと十返ってくる。